



Yokohama Arts Foundation

アートと地域をつなぐ助成プログラム 2024年度ACYアーティスト・フェローシップ助成の募集開始！

アーツコミッション・ヨコハマ（略称：ACY、運営：公益財団法人横浜市芸術文化振興財団）では、アーティストを育成し、キャリア形成を支援するための助成プログラムを2016年度より実施しています。この度、日々新しい表現を追求し、構想を磨き、創作活動に励むアーティストを対象とする「2024年度ACYアーティスト・フェローシップ助成」の募集を開始します。

採択されるアーティストは、横浜市内のACYが指定する拠点に滞在し活動を行います。市民に身近なコミュニティ拠点で、地域住民とアーティストが交わり、コミュニティの活性化や地域の魅力の顕在化、人を惹きつける新たな価値創造につながることを期待しています。

(注意事項) 本制度は、3月に開催される横浜市長会による承認をもって正式に予算が確定するものです。

1 助成名

2024年度ACYアーティスト・フェローシップ助成

2 支援内容

- ・助成金100万円
- ・横浜での滞在や制作のサポート、および人材の紹介や広報協力

3 対象

- ・美術、舞台芸術の分野において活動するアーティスト
- ・過去のACYによる助成プログラムにおいて、申請者として採択されたことがないこと

4 審査員

天野 太郎（東京オペラシティアートギャラリー チーフ・キュレーター）
岡本 純子（公益財団法人セゾン文化財団 シニア・プログラム・オフィサー）
野上 絹代（振付家・演出家、多摩美術大学美術学部演劇舞踊デザイン学科専任講師）
長谷川 新（インディペンデントキュレーター）
藤原 徹平（フジワラテッペイアーキテクトラボ代表、横浜国立大学大学院Y-GSA 准教授）

5 申請締め切り

2024年4月9日（火）23:59 必着

6 URL

<https://acy.yaf.jp.org/grants/2024/93029/>

※アーツコミッション・ヨコハマ（ACY）は、(公財)横浜市芸術文化振興財団が横浜市にぎわいスポーツ文化局の補助金を受けて運営する事業です。（横浜市中区山下町2産業貿易センタービル1F <https://acy.yaf.jp.org>）

※ぜひ当助成プログラムの取材、情報掲載をお願い申し上げます。

お問い合わせ先 *本日は19:00まで在席しております。

公益財団法人横浜市芸術文化振興財団

経営企画・ACYグループ	グループ長	鈴木 敦	TEL : 045-221-0212
経営企画・ACYグループ	担当	小原 光洋	TEL : 045-221-0212

アーティストが滞在する拠点



Photo:菅原 康太

左近山アトリエ 131110

所在地：横浜市旭区左近山 16-1 左近山団地 1-31-110

大規模団地、左近山団地内ショッピングセンターの店舗を活用したアート拠点。ギャラリー／ワークショップ／カフェなど、屋外の広場とも連携し様々な活動を展開している。



Photo:渡辺 篤

アートスタジオ アイムヒア

所在地：横浜市南区弘明寺町 259 GM2 ビル 2 階

アイムヒア プロジェクトと株式会社泰有社の共同運営によるオルタナティブスペース。さまざまな展覧会／イベント／レジデンスプログラム等を実施している。



Photo:大野 隆介

ARUNO -Yokohama Shinohara-

所在地：横浜市港北区篠原町 1410

新横浜駅近くの旧横浜篠原郵便局を活用した文化複合拠点。「未知への窓口」をコンセプトにしたシェアスペースやカフェ、ポップアップテナント等からなる施設。



Photo:堀越 圭晋 (エスエス)

Murasaki Penguin Project Totsuka

所在地：横浜市戸塚区戸塚町 4247-21 地下 1 階

2022年9月にオープンしたパフォーマンスアートとマルチメディアアートの新しい拠点。ダンスや演劇、音楽、映画など、さまざまな形態の作品発表が可能。



Photo:大野 隆介

Co-coya

所在地：横浜市緑区中山 5-9-1

空き家をリノベーションした職住一体型の地域ステーション。土壁や漆喰、草屋根など自然を感じさせる改装手法が活かされ、多種多様な活動が繰り広げられている。

(参考資料)2023 年度 ACY アーティスト・フェローシップ助成 採択者の活動の様子



加藤 立 (アーティスト)

築 60 年の民家を改修したコミュニティスペース Co-coya に、9 月と 11 月の 2 回に分けて滞在しました。滞在中、人類の顔面に抽象絵画が取り憑いた『Abstract Face』シリーズをオープンな空間で展示し、作品のコンセプトやストーリーを伝えながら、来場者と密な関係性を築き、9 月の滞在中に出会った地元住民をモデルにして制作した作品を 11 月に展示しました。



坂本 夏海 (アーティスト)

パフォーミングアーツとマルチメディアアートの新しい拠点 Murasaki Penguin Project Totsuka を活動の中心とし、アートプロジェクト『Dismantling Motherhood』を展開。「母」という言葉を解体し、母親業がもつ「他者をケアする能力」をひらくことを目指したこのプロジェクトでは、公募で集まった 6 名の横浜在住の母親たちと、ワークショップや座談会など、クリエイティブな複数の実践を行い、映像作品を制作しました。



私道 かび (作家、演出家)

左近山団地内ショッピングセンターの店舗を活用した左近山アトリエ 13110 に滞在中、約 100 名の住民から聞き取りをし、その土地に住む人々の過去・現在・未来と左近山の歴史を重ね合わせた 24 編のテキストを執筆。テキストやコラムを掲載したリーフレットの配布、俳優が朗読した音声の再生、抜粋したテキストを用いた展示と、3 通りの方法で体験できる『団地のこえ』は約 1 か月展示し、多くの来場者が思い思いの方法で楽しむことができました。



山岡 瑞子 (映画作家/アーティスト)

9 月に旧横浜篠原郵便局を活用した文化複合拠点 ARUNO - Yokohama Shinohara-にて、ニューヨークを拠点にしていた際に撮影した写真を初めて展示しました。また、12 月には『Maelstrom マエルストロム』の劇場公開にあわせて、黄金町高架下スタジオ Site-A ギャラリーにて個展を開催。映画にも登場する、現在までに制作した作品群を俯瞰できる展示となり、アーティストとしてのキャリアを提示することができました。



ユニ・ホン・シャープ (アーティスト)

アートスタジオ アイムヒアを拠点に、パフォーマンス作品『Violet』へ新しい視点を得るためのリサーチを中心に活動を展開。多様なコラボレーターをむかえたオープン・リサーチ「横浜をグラグラ歩く会 (グラ会)」では、リサーチから得た情報をもとに横浜のまちなかを歩いて巡りました。また、歴史と現代を交差させながら植民地的暴力とそのトラウマからの回復について再考する『Violet』について YPAM Exchange 内にてプレゼンテーションを行いました。